

一九〇五〜四五五年の朝鮮人関係資料及び戦争末期・敗戦直後の樺太の状況資料を含む、計八三二件、約三〇〇頁を収録。又、炭鉱資料として貴重な樺太炭鉱資料（外務省外交史料館蔵）等も収録！

本書はロシア連邦サハリン州国立公文書館所蔵の樺太庁文書の内、朝鮮人に対する日本の警察中央及び南樺太警察の厳しい管理と統制の実態を示す資料を収めた。研究者未見！

長澤秀編・解説

樺太庁警察部文書

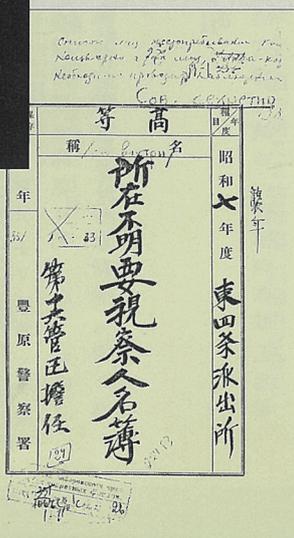
戦前朝鮮人関係敬言察資料集

全4巻

警察公報 第五〇號 昭和六年十一月 樺太廳警察部

○団体移住朝鮮人労働者逃走手配

姓名	年齢	職業	出身地	移住先	逃走日時	逃走場所	逃走手段	逃走結果	備考
山田 幸三	三十一	労働者	朝鮮	樺太	昭和六年十一月	樺太	徒歩	逃走成功	
金 山	三十一	労働者	朝鮮	樺太	昭和六年十一月	樺太	徒歩	逃走成功	
山田 幸三	三十一	労働者	朝鮮	樺太	昭和六年十一月	樺太	徒歩	逃走成功	
金 山	三十一	労働者	朝鮮	樺太	昭和六年十一月	樺太	徒歩	逃走成功	



奇 跡的に敗戦の破棄・焼却を免れ、国内にはほとんど現存しない「朝鮮人関係の警察文書」を体系的に編纂して公刊する！

緑蔭書房

編者のことば

長澤 秀

本資料集はロシア連邦サハリン州国立公文書館（ユジノサハリンスク市—旧豊原市）所蔵の樺太庁警察部文書等の中から、朝鮮人関係資料を中心に厳選編集したものである。一九〇五—四五年の朝鮮人関係資料及び戦争末期・敗戦直後の樺太の状況資料も含む、計八三二件、約三〇〇〇頁を収録。また、炭鉱資料として樺太の炭鉱会社文書・樺太から日本国内への配置転換関係の文書（外務省外交史料館蔵）も収録した。本資料集の特色

一、日本敗戦時に旧ソ連軍によって押収された文書群で、ソ連邦崩壊後の民主化、情報公開の進展により初めて公開された資料群である。

二、収録した資料の大半が警察文書で、極めて入手困難な特別高等警察の文書も多く、他で見ることが出来ない一次資料である。

三、資料の内容は樺太だけではなく日本国内の朝鮮人情報（延べ四八三一名を収録）も多数含んでいる。例えば、警視庁が国内及び植民地の警察署に送付した文書の中には、戦前とくに一九三〇年代の朝鮮人活動家（共產主義者、民族主義者、無政府主義者等）の経歴等が詳細に記載されており、在日朝鮮人運動史の空白を埋める貴重なデータである。また、昭和一六年の『朝鮮人関係書類綴』等は朝鮮人強制連行期の樺太及び日本国内の朝鮮人の動向を知り得る数少ない警察資料の一つである。

四、樺太における朝鮮人関係の資料を網羅しており、樺太の朝鮮人研究に不可欠の資料である。本資料には戦前だけでなく、ソ連占領下の各地域の朝鮮人の動静、戦後サハリンの朝鮮人離散家族発生の原因になった戦時末期の島内石炭産業の実情等の文書も含まれた。

五、収録した文書の殆んどは樺太豊原警察署東四条巡查派出所に備え付けられていたものであり、奇跡的に破壊・焼却をまぬがれた。戦前期の朝鮮人に対する警察の管理・取締体制がどの様であったか、近代警察史研究の上でも貴重な資料である。

国家権力側の内部文書という制約はあるものの、本資料を多様な視点で又批判的に活用することによって、戦前・戦時下の在日朝鮮人運動史・生活史、樺太の朝鮮人史、朝鮮人強制連行史、樺太の石炭産業史、近代警察史等々、広い分野での研究の成果を期待できる基礎資料といえよう。多くの方々の利用を願う次第である。

推薦のことば

在日朝鮮人史研究の発展に

大きく寄与する資料集

等、広い分野での研究の成果を期待できる基礎資料！

各巻主要収録資料

I（二〇八件・三五四頁）

大正一五年

①樺太庁警務要覧「抜粹」警察部警務課 六月

第二節 国境ノ警備（第一款 北樺太及国境ノ情况）

昭和四年

①昭和五年度 警察署長会議「抜粹」樺太庁豊原警察署

昭和四年中月別労働者調

土工使用違反事件調査表（自昭和二年至昭和四年）

昭和五年

①「標題なし」「抜粹」

在日本朝鮮労働総同盟東京組合ヨリ撤文送付ノ件 一月

②昭和五年度 高等雑書類「抜粹」豊原警察署東四条巡查派出所

不逞計画鮮人ニ関スル風評調査ノ件 一月

昭和七年

①昭和七年度 朝鮮人関係書類綴 豊原警察署東四条巡查派出所

在上海不逞鮮人僑民団一派ノ不逞計画ニ関スル件 二月

治安維持法違反鮮人被告保釈取消ニ関スル件 三月

鮮人一時飯鮮証明書返納ニ関スル件 五月

思想容疑鮮人手配ニ関スル件 七月

昭和八年

①昭和七年度 所在不明要視察人名簿「内昭和八年分」 豊原警察署東四条巡查派出所

所在不明要視察人手配（朝鮮人） 三月—十二月

警衛上要警戒各種要視察人所在不明手配ニ関スル件 五月

②昭和八年度 朝鮮人関係書類綴 豊原警察署東四条巡查派出所

慶尚南道出身朝鮮人調査ノ件 三月

要注意鮮人渡樺ニ関スル件 一〇月

朝鮮人犯罪表送付の件一〇月分 一一月

昭和九年

①昭和七年度 朝鮮人関係所在不明要視察人手配ニ関スル書類綴「内昭和九年分」

豊原警察署東四条巡查派出所

要視察鮮人所在不明手配 一月

要注意鮮人所在不明手配 五月

所在不明要視察鮮人捜査方ニ関スル件 八月

②昭和九年特別高等警察関係書類「抜粹」

蓄音機レコード取締ニ関スル件 五月

③昭和九年度 朝鮮人関係書類 豊原警察署東四条巡查派出所

朝鮮人犯罪手配ニ関スル件 一月

不敬犯人所在不明手配ニ関スル件 五月

治安維持法違反容疑鮮人手配ノ件 七月

中枢院参議崔麟ニ対スル在京有識鮮人並ニ学生等ノ言動ニ関スル件 一一月

朝鮮人職業別人員調（二月現在）

一九二三(大正一二)年九月一日、関東大震災が起ると、その日のうちに朝鮮人が放火した、暴動を起こしたという流言が発生し、関東各地で日本人官民の朝鮮人虐殺が始まった。すると、九月五日付『樺太新聞』は、「本島に稼動する鮮人労働者も相当の数であり、或ひは震災地方面の活動を見聞して付和雷同する危惧もないではないから当局でも十分の警戒を払ってゐる」と報じた。この日に真岡町で朝鮮人十名が警察署に検束された(六日付同紙)。私はこの紙面を見て、南樺太の治安当局のあまりの神経過敏さに驚いた。しかし、南樺太在住朝鮮人に対する警察の驚くべき監視と統制はその後もいっそう強化され続けた。

精力的に在日朝鮮人関係資料を集めて注目されている長澤秀氏が今回ロシア連邦サハリン州国立公文書館で入手した資料を収めた『戦前朝鮮人関係警察資料集』全四巻には、朝鮮人に対する南樺太警察の厳しい監視と統制の実態を示す資料が数多く含まれている。例えば、一九三六年六月二三日付、豊原警察署長の管下巡查宛指令は在住朝鮮人一人一人について名簿の作成を命じた。「内地」では朝鮮人不穏分子が朝鮮人共産党員や日本共産党と提携している向きがあるので、彼らがいづ南樺太に潜入してくるかも知れないからだというのがその理由である。一九四一年六月三十日には豊原警察署長は管下巡查部長に山間僻地に遁世的生活を営む朝鮮人に対しても調査を命じた。それはこの地がロシアと国境を接するから、これら朝鮮人の存在は防諜ないしは防共上看過できないからだといふ。

警視庁や樺太庁、あるいはその他地域の警察署から南樺太警察に送られた「要注意鮮人所在不明手配」も本資料集に取られている。これは各地の警察署が行方をつかめなくなった「要注意鮮人」の手配のために入力されたものである。これには朝鮮人運動家の職業、年齢、本籍がさらに「共産主義者」の完全協日本土木建築労働組合加入潜行の運動「敢行」などと思想、経歴などが記されている。これは在日朝鮮人運動史の史料を就む場合、人名録として役立ち得る。一九二九年七月に九州学生運動が起ると、実際に在日朝鮮労働総同盟東京組合が「全日本労働者農民兵士無産者市民諸君」を日本民衆に共闘を訴えた檄文が北海道庁長官から豊原警察署長へ、さらに管内巡査に送られた。この檄文が南樺太の日本人に送られていることを恐れたか、ある。南樺太の警察は日本全国の警察の監視網の環とでも運営されていた。従って本書に収められた警察資料は南樺太だけではなく日本全国を関係する資料も多く含まれている。この意味で本資料集は在日朝鮮人史研究の発展に大きく寄与するにちがいない。

推薦文
戦前期の帝国内部の朝鮮人の移動と警察の管理・実態を知る資料

鮮人史、朝鮮人強制連行史、樺太の石炭産業史、近代警察史

Ⅱ (二八五件・四六〇頁)

- 昭和一〇年
 - ① 昭和七年度 朝鮮人関係所在不明要視察人手配二関スル書類綴「昭和10年分」所在不明要視察人手配 一月
 - ② 昭和一〇年度 朝鮮人関係書類綴 豊原警察署東四条巡查派出所 一時帰鮮者取締二関スル件 三月
 - 満州国皇帝陛下御訪日二際シ在露不逞鮮人ノ不穏計画二関スル件 四月
 - 在外鮮秘密結社状況二関スル件 五月
 - 容疑刊行物発見二関スル関係者所在調査二関スル件 七月
 - 内鮮融和ヲ標榜スル朝鮮人等ノ行動二関スル件 一一月
 - ③ 標題なし「抜粋」
- 昭和一一年
 - ① 昭和七年度 朝鮮人関係所在不明要視察人手配二関スル書類綴「内昭和11年分」所在不明要視察人手配 六・七月
 - ② 昭和一一年度 朝鮮人関係書類綴 豊原警察署東四条巡查派出所 在日本朝鮮基督教會結成ノ件 二月
 - 要注意新聞講演演鮮人視察二関スル件 四月
 - 朝鮮人名簿作成二関スル件 六月
 - 行動容疑鮮人所在発見手配解除ノ件 一一月
- 昭和一二年度
 - ① 昭和七年度 朝鮮人関係所在不明要視察人手配二関スル書類綴「内昭和12年分」
 - ② 昭和一二年度 朝鮮人関係書類綴 豊原警察署東四条巡查派出所 朝鮮人身元調査方二関スル件 一月
 - 要視察朝鮮人所在捜査二関スル件 五月
 - 所在不明手配鮮人発見二関スル件 七月
 - 北支事変勃発後二於ケル在市要視察朝鮮人ノ動静二関スル件 八月
 - 不逞鮮人内地潜入警戒方ノ件 九月

Ⅲ (三三三件・四二六頁)

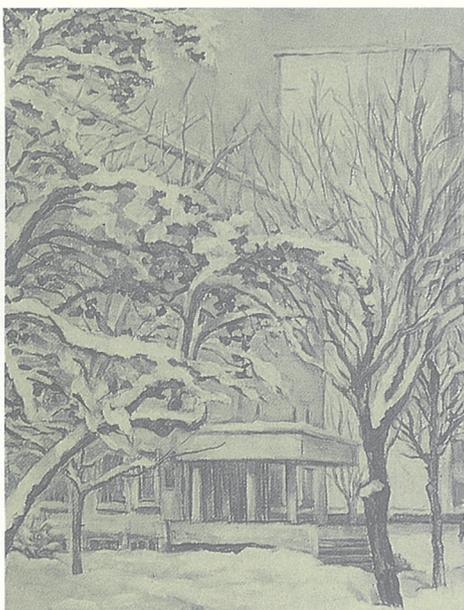
- 昭和一六年度 警察公報「抜粋」 樺太庁警察部 団体移住朝鮮人労働者逃走手配 一一月
- ② 昭和一六年度 外事雑書綴「抜粋」 豊原警察署東四条巡查派出所 外諜容疑鮮人所在捜査依頼ノ件 二月
- ③ 昭和一六年度 朝鮮人関係書類綴「内昭和16年分」 豊原警察署東四条巡查派出所 移住朝鮮人労働者所在不明手配ノ件(静岡県日本軽金属他) 一月
- 集団移住朝鮮人労働者逃走手配二関スル件(山梨県富士川水力発電工事) 二月
- 団体移住鮮人労働者逃走手配(兵庫県生野鉱業所他) 九月
- 昭和一七年度
 - ① 昭和一六年度 朝鮮人関係書類綴「内昭和17年分」 豊原警察署東四条巡查派出所 朝鮮人学生ノ視察強化二関スル件(警視庁) 一月
 - ② 昭和一六年度 思想関係書類綴「抜粋」 豊原警察署東四条巡查派出所 樺太労働者ノ思想 七月 樺太庁
 - ③ 昭和一七年度 機密二関スル書類綴「抜粋」 豊原警察署東四条巡查派出所 朝鮮料理屋ノ不正行為二関スル件 九月

戦前、アジア諸国・諸地域を植民地や勢力圏として支配した「帝国」日本の内部では、巨大な人の流れが生まれた。今回、復刻される樺太庁警察部文書の大きな意義は、そのような人流・人口移動の一端とそれに対する日本に施策をきわめて具体的な姿で我々に見せてくれることにあると思う。

人口移動の代表的なものとしてまずあげることができるのは労働力の移動であり、自由意志による渡航およびいわゆる強制連行による朝鮮人労働者の樺太への移動もその一環をなしている。特にこの資料集では、一九三八年の国家総動員法公布の前後にまたがる時期の資料が含まれているので、強制連行以前と以後の樺太在住朝鮮人の構成や現地警察の管理体制の変化などを分析できるだろう。

また、「帝国」内部の人の流れとしては、警察の主要な関心対象でもあった抗日独立運動家も見落とせない。ほんの一例だが、一九二八年一月、中国東北部に根拠をおく朝鮮独立運動団体・義烈団が樺太国境から日本本国への侵入をはかったため、警視庁から移牒を受けた樺太庁警察部が警戒に当たり容疑者を検挙したという新聞記事がある(『中国新聞』一九二八年一月二日付)。朝鮮人の抗日運動とそれを取り締まる警察の活動はいずれも国境をこえて展開されていたのである。本資料集に取められた要視察朝鮮人についての複数の手配書も当時のそのような警察の業務のあり方を物語っている。

ところで、戦前の警察関係文書は歴史研究者にとって必ずしもアクセスが容易な資料ではない。敗戦時の破壊・焼却を免れたとしても、府県警察本部や警察署のような現存の警察機関が所蔵している場合、研究者への公開はほとんど許可されないのが現状である。その意味で旧日本植民地だった樺太の警察関係文書がこのように目の見えることは奇跡的だといつてよい。戦前期の朝鮮人の移動の様相と彼らに対する警察の管理・取締の実態にさらなるメスを入れることのできる貴重な資料として本資料集を推薦したい。



サハリン州国立公文書館とその書庫

戦前・戦時下の在日朝鮮人運動史・生活史、樺太の朝鮮人

④ 標題なし「内昭和17年分」
要注意朝鮮人所在不明手配ノ件 九月
脱船朝鮮人手配ニ関スル件 一二月

IV (一〇六件・三四〇頁)

昭和一八年

① 標題なし「内昭和18年分」

不敬不穩投書ニ関スル件 四月

半島労働者ノ流言蜚語ニ亙ル通信ニ関スル件 六月

② 昭和一八年度 行政捜査書類綴 豊原警察署東四条巡查派出所
逃走労働者手配ニ関スル件 五月

壮丁特別訓練生逃走調査手配ニ関スル件 六月

昭和一九年

① 昭和一九年度 行政捜査書類綴「抜粹」 豊原警察署東四条巡查派出所
労働者逃走手配ニ関スル件 六月

半島逃走労働者ノ手配方ノ件 九月

昭和二〇年

① 往復書類「抜粹」 樺太庁内政部地方課
食糧配給基礎人口調査表 一〇月

② 市町村管内要覧「抜粹」 樺太庁内政部地方課
市町村要覧並ニ管内状況 一二月

豊北村要覧／川上村管内要覧／三郷村概況書／千歳村概況

付属資料1 炭鉱関係資料

昭和一七年

① 標題なし「抜粹」

徹秘 昭和一七年樺太炭受払表 樺太鉱業会
徹秘 昭和一七年度(一)・(二)樺太炭実績表 樺太鉱業会

昭和一八年

① 昭和一八年度 行政雑書綴「抜粹」 豊原警察署東四条巡查派出所
炭鉱ニ於ケル災害ノ原因調査ノ件 八月

② 情報綴「抜粹」

各炭鉱ノ稼行並経営状況ニ関スル件 一〇月

本島産石炭ノ増産計画下之ガ対策ニ関スル件 一二月

昭和二〇年

① 昭和二〇年度 島内石炭配給関係綴「抜粹」 鉱務課
極秘 石炭受払調査表 七月 樺太石炭統制株式会社

秘 昭和二〇年七月三十一日現在坑所港頭貯炭調 坑所貯炭数量 樺太石炭統制株式会社

付属資料2

① 昭和一九年 樺太及釧路ニ於ケル炭鉱労働者ノ配置転換関係(外務省外交史料館所蔵)

② 昭和一八年 朝鮮独立ヲ企画セル治安維持法違反被疑事件検挙ニ関スル件(国立公文書館所蔵)

解説 長澤 秀

▼第Ⅲ巻収録

本籍慶南陝川郡任會面	人相着衣	就勞場所	備考
六五尺寸位	山梨縣		

3) 集田移住朝鮮人労働者逃走ノ此ニ関スル件
 山梨縣富士川水力発電工事場(就勞中)ノ集田移住朝鮮人労働者ニシテ今般左記ノ通り逃走者アリタル旨警察部長ヨリ通牒有之テ既相成度右通達ス

豊高外秘第ニ〇八〇號
 昭和十五年十二月二十八日
 管内各巡查(部長)殿
 豊原警察署長

▼第Ⅰ巻収録

千配	種別	系統	水籍	姓名	年齢	相徴	所在不明	備考
一	朝鮮人	共産主義	本籍慶南陝川郡通津府 慶南道背里二里 住所京都市目黒区下目黒一四三	徐相環	四五	胡九、色	昭八年	色眼鏡
二	民族主義	本籍慶南道通津府 郡慶南道九波里三三三三平九路三男 住所京都市淀橋区町三二押谷方	車彰烈	明一	四五、寸	体格小柄	昭八年	警視廳
三	共産主義	本籍慶南道清州 本籍慶南道清州 郡慶南道北山里 六三〇柳海峯長男 住所京都市淀橋区柏木二七七 小林方	柳冠登、柳唯剛、柳祥允	六六元	四五、寸、髮長額丸、色白額廣、眉淡眼丸、鼻隆背骨丸、唇内肉並	昭七年	九月十日	

木藤 特高秘第ニ九八七號
 昭和八年三月二十七日
 豊原警察署 特高秘第八五四號
 昭和八年四月七日
 所在不明要視察人手配(朝鮮人)

▼第Ⅳ巻収録

要旨
 一、昭和十九年度増産計劃ノ状況
 配船勞務、資材等、不足ニ甚因シ本島、産出石炭ハ現在著シク低位ヲ示シ且出炭抑制ノ余儀ナキ実状ニアリタルガ昭和十九年度物動計劃大綱ニテ決定シ見タル本島産出石炭ノ計出数量ハ
 出炭数量 七〇〇萬噸
 移出炭数量 五二〇萬噸
 ニシテ本年度、出炭数量ヨリ三〇〇万噸ノ増産同ジク移出数量ヨリ二八三万噸ノ増送ナリ

經保秘第ニ三〇三號
 昭和十八年十二月二十三日
 樺太廳警察部長

▼第Ⅲ巻収録

豊高外秘第ニ〇九號
 昭和十七年三月二十三日
 豊原警察署長
 管内各巡查(部長) 殿
 朝鮮人ノ民族運動狀況ニ關スル件
 各府縣ニ於ケル朝鮮人ノ民族運動狀況左記ノ如キニ付視察取締上參考ニ資セラレ度旨警察部長ヨリ通牒之有
 右通達ス
 記
 朝鮮人ノ民族主義運動ハ極メテ執拗ニシテ隨時ソノ客觀情勢ニ應ジ或ハ拾頭シ或ハ發伏潛在スル等巧ミニ各觀情勢ヲ利用シ又ハ他ノ運動ニ便乗シテ策動ヲ特積シツツアル實情ニシテ表面好轉化セリト謂フモ尙樂觀ヲ許可シ難キモノアリ

331

しげる
長澤秀編・解説

戦前 朝鮮人関係警察資料集

——樺太庁警察部文書——

全4巻

編集復刻版・上製クロス装・1頁(横2面付)・総1600頁(原本約3000頁分)

定価 84,000円(本体80,000円) ◆分売はいたしません

ISBN4-89774-270-6 C3021 ◆2006年6月末一括刊行

戦時下朝鮮人中国人連合軍 俘虜強制連行資料集

——石炭統制会極秘文書——

長澤秀編／解説 強制連行による全国の主要炭鉱の詳細な労務統計と労務管理の実態を示す極秘内部資料を体系的に収録編集した。 全4巻／84,000円*

戦時下強制連行 極秘資料集[東日本篇]

——石炭産業内部文書——

長澤秀編／解説 労務管理・統制の実態と敗戦後の朝鮮人の動向、帰朝状況を当事者の綴る克明な記録で初めて明らかにする。 全4巻／84,000円*

朝鮮総督諭告・訓示集成

水野直樹編／解説 韓国併合から日本敗戦、朝鮮解放までの全時期を通して、歴代の朝鮮総督の諭告・訓示類を時系列に編集した待望の資料集。植民地全般の研究に必備。 全6巻・別巻1／126,000円*

戦時下朝鮮人 労務動員基礎資料集

樋口雄一編／解説 労務動員の法的資料、農村の農民移動資料、労働者基礎調査資料、及び労務資源調査を中心とした総督府の公文書資料を収録。戦時労務動員の実態を示す基礎資料。 全5巻／94,500円*

朝鮮労務

朝鮮労務協会編／庵辻由香監修・解説 戦時下朝鮮の労働力動員政策の推進に大きな役割を担った文の機関誌。全20冊(昭和16～20年刊)を収録。 全4巻・別冊1／69,300円*

関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料

14年の歳月をかけ、関東大震災下の朝鮮人虐殺事件に関する史料を集大成。本シリーズ(全V集)完結!

第I集 朝鮮人虐殺関連 児童証言史料

琴乗洞編／解説 東京・横浜の児童の生々しい朝鮮人虐殺の直接・間接の証言集を収録した。 19,950円*

第II集 朝鮮人虐殺関連 官庁史料

琴乗洞編／解説 政府、陸・海軍、警察、各府県の対応を史料の上から立体的に編集した。 19,950円*

第III集 朝鮮人虐殺に関する 知識人の反応

琴乗洞編／解説 朝鮮人虐殺に対する、政治家・知識人など日本人の言説を収めた。 全2巻／42,000円*

第IV集 朝鮮人虐殺に関する 植民地朝鮮の反応

琴乗洞編／解説 朝鮮の新聞報道、震災が朝鮮に与えた影響と総督府の対策を収めた。 19,950円*

第V集 朝鮮人虐殺関連 新聞報道史料

山田昭次編／解説 流言の出所及び、その伝播により起った全国各地の権力や民衆の動向を報じた新聞記事を初めて体系的に集成。 全4巻・別巻1／102,900円*

太平洋戦争 メディア資料

北山節郎編／解説 開戦・終戦時における日本の対外報道とその米国傍受記録集成。日米情報戦の基本資料。□開戦一真珠湾攻撃と対外報道 □終戦と対外報道 全2巻／71,400円*

続・太平洋戦争 メディア資料

北山節郎編／解説 新発掘した一次資料を多数収録。詳細な解説を付し、正編と合せて日米情報戦の全体像を明かす。□外務省と対外放送/ラジオ・トウキョウ小史 □ピース・トークとアトロシティズ □日系人強制収容所の日本放送傍受記録 全3巻／63,000円*

昭和六・七年事變海軍戦史

海軍軍令部編／田中宏巳・影山好一郎解説 満州事変・上海事変の史実を詳細に記述した「軍機」戦史。原本は米議会図書館が唯一所蔵しているもので、日本初公開。 全4巻・別巻1／100,800円*

太平洋戦争開戦前史

——開戦迄の政略戦略——

第二復員局残務処理部編／田中宏巳監修・解説 本書(原題『開戦迄の政略戦略』)は、米国議会図書館所蔵「日本の公文書及び検討資料」の一部で、今回全文を初めて公開する。 16,800円*

太平洋戦争放送宣伝資料

北山節郎編／解説 情報局の『海外放送講演集』『対敵電波戦』を収録。政府・軍の宣伝戦の全容と文化人の戦争プロパガンダ協力の実態史料。 全4巻／67,200円*

*印は編集復刻

緑蔭書房

〒173-0004 東京都板橋区板橋1-13-1
☎ 03(3579)5444
[定価は消費税5%込みです]

●下記の書店にお申し込み下さい。